

平成 2 3 年度
運営諮問会議報告書

平成 2 4 年 3 月 8 日

石川工業高等専門学校

目 次

石川工業高等専門学校運営諮問会議規則・・・・・・・・・・ 1

運営諮問会議委員及び学校側出席者・・・・・・・・・・ 2

運営諮問会議日程・・・・・・・・・・ 3

議 事・・・・・・・・・・ 5

参考資料・・・・・・・・・・ 1 7

運営諮問会議委員及び学校側出席者

運営諮問会議委員 任期：平成23年4月1日～平成25年3月31日（五十音順、敬称略）

水 野 祐 志（石川県商工労働部長）

斉 藤 直（財団法人石川県産業創出支援機構 副理事長）

澁 谷 進（技術振興交流会 会長（澁谷工業株式会社 取締役副会長））

正 吉 喜久夫（石川県小中学校長会 中学校部会長（金沢市立高尾台中学校長））

○牧 島 亮 男（北陸先端科学技術大学院大学 シニアプロフェッサー）

村 上 満（石川高専 同窓会会長（アキュテック株式会社 代表取締役））

矢 田 富 郎（津幡町長）

山 崎 光 悦（金沢大学 理工研究域長・理工学域長・工学部長）

米 田 政 明（富山高等専門学校長）

○は議長。なお、水野委員、矢田委員、山崎委員及び米田委員は所用のため欠席。

学校側出席者

校 長

村 本 健一郎

副校長、技術教育支援センター長

高 島 要

副校長（教務主事）

松 田 理

校長補佐（学生主事）

川 原 繁 樹

校長補佐（寮務主事）

深 見 哲 男

校長補佐（図書情報主事・図書館長）

阿 蘇 和 寿

校長補佐（地域連携主事・トライアル研究センター長）

西 澤 辰 男

専攻科長

金 寺 登

一般教育科主任

鈴 木 康 文

機械工学科主任

八 田 潔

電気工学科主任

森 田 義 則

電子情報工学科主任

竹 下 哲 義

環境都市工学科主任

富 田 充 宏

建築学科主任

石 渡 博

情報処理センター長

山 田 悟

国際交流委員会委員長

太 田 伸 子

国際交流委員会副委員長

道 地 慶 子

電気工学科教授

瀬 戸 悟

事務部長

草 間 忠 明

総務課長（司会）

柴 田 裕 司

学生課長

坂 野 利 宏

運営諮問会議日程

1. 日 時 平成24年3月8日(木) 13:30～16:30

2. 場 所 石川工業高等専門学校 管理棟2階 大会議室

3. 日 程

13:30 開 会(出席者紹介、資料確認、日程説明)

13:35 校長挨拶、議長選出

13:40 議 事

1. 第2期中期計画に係る平成23年度の取り組み状況について

2. 平成24年度年度計画についてその他

15:40 全体討論及び講評

16:30 閉 会

4. 資 料

(1) 石川工業高等専門学校運営諮問会議規則

(2) 石川工業高等専門学校運営諮問会議委員名簿

(3) 石川工業高等専門学校 第2期中期計画・年度計画

(4) 石川工業高等専門学校 自己点検評価報告書『明日へ向けて』第6報

(5) 平成23年度 石川工業高等専門学校の活動状況

(6) 石川工業高等専門学校「学校要覧」(平成23年度版)

(7) 石川工業高等専門学校「学校案内2012」

(8) トライアル研究センター「年報」第9号

(9) 「灯火」第111号, 第112号, 別冊26

(10) 「石川高専だより」のNo.82、83

(11) 当日説明資料

議 事

【開 会】

総務課長から、平成 23 年度運営諮問会議の開会宣言があり、出席委員の紹介、本校出席者の紹介を行った。

引き続き、配布資料の確認、日程の確認を行った。

【校長挨拶】

本日は、年度末の公私共にお忙しいところご出席いただきまして、誠に有難うございました。平成 16 年度から国立の大学・高専が法人化されまして、本校をはじめ 55 高専が一つの独立法人高等専門学校機構となりました。現在は、国立高専 51 高専であり、その中の一つが本校でございます。平成 24 年度に第 1 期に設立されました国立高専が 50 周年を迎えまして、当時は産業界の人材育成の要請ということでスタートしております。中学卒業から 5 年間で技術者を養成し、当時は即戦力という言葉を使いましたが、そういった技術者を安定的に社会に輩出してきております。

全国の高専学生 1 学年で 1 万人と言われており、国立大学の工学系が 2 万 5 千人から 3 万人の割合であり、かなり重要な位置を占めております。その中で世の中のニーズも変わってきておりまして、変化に応じて高専の 5 学年では不足な技術もあるということで、専攻科が設置されまして、5 年にプラスして 2 年間で大学の学部卒と同じとなり、同等以上の表現を私どもは使っておりますが、非常に豊かな創造力、クリエイティブ或いは開発型の人材が輩出されているかと思えます。私どもはこれまでの伝統を守りながら、また、新しいことへの変革をやりながら、やってきておりますが何分にも、評価の中で気がつかないところもございますので、外部委員の有識者の皆様にご意見、ご提言をいただきたいと思っています。法人化になったときから、自主的に自主点検を義務付けられております。中期目標・中期計画がその一つでございます。と同時に校外のご意見を仰ぐということも義務付けられておりまして、これが運営諮問会議ということになっております。

日頃、お気づきのところを私どもが気がつかないところにつきまして、忌憚のないご意見、ご提言をいただければうれしく思います。

なお、議長につきましては、委員の互選により選出することとなっておりますが、本日は、北陸先端科学技術大学院大学シニアプロフェッサーの牧島様にお願いしたいと思います。

皆様いかがでしょうか。有難うございます。では、牧島先生、この後の会議の進行につきまして、どうぞよろしくお願いいたします。

【議 事】

皆さん、こんにちは。牧島でございます。

議事進行をさせていただきます。今まで何回かやらせていただきましたけども、それに添った形で皆様のスケジュールがありますので、16 時 30 分を目途に終わらせたいと思います。

色々なプレゼンがあつたりしますので、疑問があつたりした場合はその都度手を挙げて頂き、声を出していただいて結構ですので、どんどん躊躇せずにご質問、コメントを出していただきたいと思います。

一番最後にもし時間があれば各委員の先生方から、総括的にコメントをいただきたいと思います。時間にそって行いたいと思いますので御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、初めに第2期中期計画に係る平成23年度の取組状況についてということで、今年度どういうことを行ったかというプレゼンです。目的にそってきちっと行ったか、成果が出たかということ、プレゼンしていただきます。では、よろしくお願いします。

・松田副校長（教務主事）から資料に基づき、下記について説明を行った。

中期目標と教育改革プロジェクトについて

- (1) 中期目標・計画について
- (2) 教育改善（授業参観・FD）について
- (3) GP・高専改革推進経費の報告（文科省テーマA・高専改革経費国際）
- (4) 質の高い大学教育推進プログラム「学習達成度試験による専門教育の質の保証」の報告

（司会:牧島）

質問等があればお願いします。もし、無いようであれば、次のプレゼンの後に纏めてお願いします。では、次は学生の課外活動と心身の健康についてお願いします。

それでは、学生主事をお願いします。

・川原学生主事から、下記について説明を行った。

課外活動と心身の健康について

- (1) オンリー1 プロジェクトについて
- (2) ロボコン等対外コンテスト及び高専体育大会について
- (3) 学生のメンタルヘルスについて

（司会:牧島）

有難うございました。質疑の時間を取りたいと思いますが、今の時点でご質問、コメントがございましょうか。

（村上委員）

同窓会の村上でございますが、先程校長先生の話の中で、専攻科を卒業すると大学と同等或いはそれ以上の勉強をなさっているとお聞きしたのですが、高校3年から大学へ行く、或いは高専の3年生から大学へ行く、或いは高専を卒業して専攻科へ行くのとは全然違うと思いますが、カリキュラム上はどのようなのでしょうか？

教えていただきたいと思います。

(松田副校長・教務主事)

基本的には高専5年間一貫ということを考えています。途中の3年から大学へ行くことは、たまに学生がおりますがなかなか無いことであり、またカリキュラム上でも難しいという気がします。1年生、2年生から高校へ行きたいと言われても、まず、受入れて貰えません。カリキュラムが全く違いますので。そういう意味では、通常の高校のカリキュラムにはなっておりません。高専から専攻科へ行くということは当然、連続性を考えておりますし、技術科学大学の場合などが当然、そのように考えられています。5年から総合大学へ編入して行く場合には、3年編入が一般的ですがカリキュラムが重複しておりますので無駄があります。無駄といっても全く同じものをやるわけでは無く、いろんな科目が提示されているので、色々な科目を受けることによって、幅広い専門性を身に付けることができるのではないかと考えています。

(村上委員)

つまらないご相談なんですけど、もし、自分の子どもをそういう道につかせるとした場合に、その道が一番良いでしょうか？

(村本校長)

昨年度まで大学にいましたので違う観点からお話します。

本科の5年を卒業して、編入学で大学の3年生に入ってくる学生は、そこでも上位の成績であることは間違いのないことではありますが、大学の中でもレベルが高く、意識が高い。3年の成績は、学科の中でも殆ど上位になります。研究室に入ってきて、卒業研究をやりとこれもまた一度経験をしていますので、初めから非常に積極的にやります。

本校の専攻科を卒業しますと、大学院に入学が可能であり、そういう学生を受入れますと、いろんなことがよく出来ているという印象です。就職もそうなんだと思います。

それから、先端大学の方へも本校の専攻科の卒業生が何人か行っていますが、先日も先端大学の先生から手紙をいただきました。成績も良いとのお話をいただいております。工学系に進まれる方で、中学校卒業の時点で本人がものづくりに興味がある、或いは工学の分野へといった場合は、高専をターゲットとして5年或いは7年で卒業する。或いは大学へ行く、これは確実に言えることかと思えます。

(松田副校長・教務主事)

それから、人数的に言いますと、先程校長からお話がありましたが、国立大学工学部で33千人位います。高専卒業生の進学が4割強位いますが、その内の殆どが国立大学の工学部に入っていますので、その分を含めると、大学生といえども高専卒業生がいるということですので、高専出身者を考えると3割以上は国立大学の工学部系にいるということになります。最近それが周知されてきて、今年の倍率なんかも少し高くなったのもあるのではないかと考えています。

(司会:牧島)

有難うございました。

(澁谷委員)

非常に興味のあるディスカッションを聞かせていただきました。議長にご質問をして恐縮ではありますが、牧島先生は大学と大学院大学の両方にご経験でございますので、今の議論について、コメントをしていただきますようお願いいたします。

(司会：牧島)

東京大学に10年位いまして、もう時効でしょうからお話しますが、高専の編入の試験を担当してまして、いやあ、出来るんですねえ高専の編入の学生って。村本先生がお話されたように、学部の成績も良いし、中には東大出身の学生と勿論遜色全く無いんですが教員になられている方もいます。

何が違うのかと考えたときに、初めからの意識が全く違うですね。同じ年齢を重ねて何故、こうも違うのか。高専の学生がずーと上です。

つまり、高専に入った時からの意識が大学に入った時にはかなり違うではないか。それが、じわじわと色々なところに出て来て、いい学生が育っている。

ここでも前に紹介しましたが、OECDの調査団が高専の教育状況を視察したんですね。そしたら、日本のものづくりの根源はここにあるのではないかと非常に高い評価をしたんです。そういうことを照らし合わせると、高専の教育は充実してしっかりしているという気がします。

(澁谷委員)

今のお話には、お世辞とかはないんでしょうか。

(司会:牧島)

全くありません。

(澁谷委員)

日本の工学教育の制度を考えなければいけないような局面があるというふうな理解をしてよろしいんでしょうか。

それはちょっと言いすぎですか。

(司会：牧島)

ものづくりに関係する部分はいろんな形で見直しが必要なのかと思いますね。

高専の時にいろいろな指先を使った経験が沁みこんでいますから、座学だけで物事が済むものではないので。そこら辺はあるかもしれませんね。

(村本校長)

大学に比べると、高専の出身の学生が非常に良いというのは、高専の教育が非常に満ちに行われているということです。1クラス40人、専門分野で40人というのは非常に小さいです。目が行き届く範囲で、大学あたりでは、大体2倍の人数です。

学生実験も1グループ大学では8～10人で、高専はもっと密に全学生が係わらなければいけない実験を行っている。授業の量は大体2倍の時間数です。ですから、圧倒的に密に行っています。その中で、教員数が大学の半分くらいで、もっと少ないかもしれませんが、授業の担当量にも驚いています。高専の先生方は本当に忙しいと思っています。その結果として、いい成果となっていると思っています。

(司会:牧島)

次のプレゼンに移ってよろしいでしょうか。

次は、地域貢献と研究活動について、地域連携主事の方からお願いいたします。

- ・西澤地域連携主事から資料に基づき、下記について説明を行った。

地域貢献と研究活動（地域連携主事）

- (1) 技術振興交流会との連携
- (2) グローバル人材の育成
- (3) 出前授業・公開講座の現況及びサイエン車の活用について
- (4) 外部資金の獲得状況

(司会:牧島)

有難うございました。それでは、質疑応答の時間を取りたいと思いますが、最後にお話があったことは非常に大切でして、自分の少ない経験ですが何か色々事業をやったり活動をする、旨くいくとその人に集中していき、周りの人は彼に任せておけばと傍観者になってしまう。

全員が参画するようなシステムを作り、皆さんが経験することによってそれが将来にいきってくるので、最後に仰った事は非常に重要なことだと思います。

少しずつ準備しながら全員参加型のものになると良いなと思います。

(西澤地域連携主事)

有難うございます。正に、先生に仰っていただいたとおりでありまして、我々も何らかの下地を作らなければいけないと思っていまして、皆さんもご経験があると思いますが、例えば、出前授業で行くに行ったなりに面白いという経験があると思いますが、行く機会を作ればそれなりに、また参加していただけるのではないかと考えています。例えば、メニュー化をして、実験といってもそんな難しいことをやる訳ではないので、誰が行ってもで

きるようルーチンワーク化をし、学科の中で2〜3のメニュー化を考えてもらい、順番に経験をしてもらうことが大切だと思います。

もう一つは、経験者の経験を蓄積することが必要で、学校の授業でもやって見て改良等を加えることが重要で、そういった仕組みを作って今までやっていることを経常化し、持続可能なようにするために、色々な仕組みを考えていかなければならないと思っています。具体的には、これからみんなで考えて生きたいと思っています。

(司会:牧島)

その他、何かございますか？

外部資金を取ることは、それなりに研究という面での活性化で重要なんですが、あまりこれらに集中してしまうのも、教育の方がおろそかになるということがありますので、そこら辺はバランスを考えそれなりにやる必要があるかと思っています。

科研費の採択率も非常に高いと思いますし、各先生方が努力されている結果だと思います。教育の方が疎かにならないようにして、研究レベルの活性化ということでは必要である。難しいが教育と研究のバランスをとりながらやるのが非常に重要である。

(斉藤委員)

地域貢献っていうものが凄いなと思っているんですが、例えば県内企業の140社の交流会ですが、金沢大学の協力会が確か140社くらいだったと思いますが、大学と比べると多いなあということが分かるのですが、他の高専と比べたらどうなのかということが分かれば教えていただきたいと思っています。

(西澤地域連携主事)

私も調べた訳でないのですが、東海北陸地区でのセンター長会議等でお話を伺うことがあるが、多分多い方だと思います。理由は会費が非常に安いということです。他の高専ではもう少し会費が高かったりします。それと、これだけ熱心に交流を活発に行っているところは本校だけではないかと思っています。活発というより密度が濃い活動かと思えます。

(村本校長)

金沢大学での企業との連携もありましたが会費は、3万円でしたが年1回総会と懇親会を行うが、教員の参加はなく各学部、学科に割り当てがきまして、大学は教員個人と企業との連携ということで全体的な取組は無かったと思います。こちらは、年何回も沢山の方が参加し、非常に良い話し合いができるということで盛り上がり、関心をしているところです。

高専の校長会とかに行くのですが、石川高専さんは凄いですね、研究と外部資金やGPが公になっており、実は昨年度貰ったものの評価が先日ありまして、大学高専を含めて

優れた取組に選ばれまして、その中でも特に優れた取組として高専で1校選ばれております。色々なところで素晴らしい評価をうけております。また、学生の意識、モチベーションも高く、津幡町との会議で八朔祭りへの影響が多く、夏季休業の変更で町として学生抜きでは運営が難しいので、7月末に開催していたものを高専の学年暦に併せて変更を検討しているというくらいであり、本校の学生の意識が高いことに興味しているところです。

科研費についても殆どの先生が申請をします。研究だけでなく教育を絡めた研究テーマを申請しており、すばらしいことばかりで興味しています。

(司会:牧島)

有難うございました。高専の機構の方も評価の方も担当しておりまして、高専の使命として地域貢献の活性化と英語教育をやりなさいということが書いてありまして、その点では石川高専は良くやっけていらっしゃると思います。是非、継続的に発展させていただきたいと思います。

その他、何かございませんか。

無ければ次の「技術者・社会人としての人材育成」について、専攻科長と寮務主事にお願いします。

- ・金寺専攻科長から、資料に基づき下記について説明を行った。
長期インターンシップについて（専攻科長）

- ・深見寮務主事から、資料に基づき下記について説明を行った。
学寮における指導（留学生含む）（寮務主事）

(司会:牧島)

ご質問等ありますか。

それでは、時間がおしえていますので一番最後に質疑応答の時間を取りますので、一旦、休憩といたします。

それでは、後半の部分になりますが、大学もそうですが高専でも良い学生に来ていただくことが非常に重要でありますので「志願者増加対策及び広報活動」について、高島副校長、阿蘇図書情報主事にお願いします。

- ・高島副校長から、下記について資料を基に説明があった。
志願者増加に向けた広報活動のあり方
中学訪問・入学試験説明会について
- ・阿蘇図書情報主事から、下記について資料を基に説明があった。
学校の広報活動の現況とホームページの改訂

(司会:牧島)

有難うございました。次に施設関係ですが事務部の方からお願いします。

- ・草間事務部長から、下記のついて報告があった。

本年度における施設の改善と今後の展望

- (1) 学寮施設整備 (事務部)
- (2) 正門前環境整備 (事務部)

(司会:牧島)

有難うございました。

今までのご説明の中で、この点が説明不足であったという点がございますでしょうか。

特に無いようですので、質疑応答に入りたいと思います。

(正吉委員)

学校要覧の出身別地区を見てみますと、金沢市は附属も入れて 25 校の中では私の印象では意外と少ないように思いますが、河北はさすがに地元で 6 校ですが、かなり多い数が来ているように思います。先程話がありました出前授業、公開講座というものが効果を挙げているのかなと思います。ただ、先程の出前講座の行っている学校を見ましたら、小松の板津中学校がでていましたけど、金沢市の学校が 1 校もないんですね。例えば、先程のサイエン車を文化祭に持っていくとか、そういった何か工夫をすれば、特に金沢駅に近い学校については、通学がそんなに大変でないと思いますし、もっと増えるのではないかと感じました。因みに私は、高岡中学校で南部ですので、今年度受験生 5 名受験しました。合格は 1 名でした。内の学校に隣接したところに金沢高専があります。工業系に興味を持っている生徒はもっといるように思います。私の中学校からは金沢高専に 10 数名進学しております。地元の繋がりとして、例えば金沢高専さんにはこの冬、土曜補習のお手伝いを学生さんにさせていただきました。それから、放課後には科学部の生徒を対象に講座を行っていただいたり、ロボコンの指導をしていただいて去年は県代表で名古屋の大会にいきました。そういった繋がりがあるということで、受験生が増えたのではないかと思います。確かに、歩いていける距離なので、生徒たちも受けやすいのかと思います。本校は、例年 4 校の高校訪問を 2 回行っておりますが、その中で保護者のアンケートを取ると回りたい学校の中に金沢高専が上がってきます。去年も今年も保護者の方も見に行っています。何かもっとコマーシャルをして金沢の生徒を増やせないのかなと感じました。

(高島副校長)

いい情報を有難うございました。色々参考にさせていただきたいと思います。

先程、本校の場合ですが志願者が増えたと申し上げましたが、金沢地区が昨年から比べますと、45 人とここが一番大きく数が増えました。全体の志願者の 40% 近くが金沢地区で

ございました。我々、若干ホットしたところがあったのですが、今のお話を伺いますと、いやいやまだまだだと改めて感じております。

(司会：牧島)

はい、それでは平成 24 年度年度計画の中間説明についてよろしく願いいたします。

- ・高島副校長から、資料に基づき報告を行った。
平成 24 年度年度計画について（中間説明）（副校長）

(司会：牧島)

有難うございました。それでは各委員の先生から総合コメント的なお話をお願いします。
初めに斉藤委員からお願いします。

(斉藤委員)

もう言うことがありません。これを見本として私どもも頑張りたいと思います。有難うございました。

(澁谷委員)

少々申し上げたいと思います。この「灯火」ですか、これの発表について非常に感銘を受けて聞かせていただきました。勿論、ここは専門教育ということで非常に大事なことだと思いますが、言うまでも無いことですが、「一般教養」英語で言うと「リベラルアーツ」と言われますが、結局社会にでて役に立つというのは、そのあたりで何もその時間を増やして欲しいというわけではありませんが、それに対する学校として校長はじめ皆様方の姿勢についてお聞かせいただきたい。これは質問でございます。

(高島副校長)

一年前にも澁谷先生からご助言といいますが、「しっかりせえ」といただきましたが、これは高専が、いわゆる職業専門学校でございせんし、いわゆる専門学校というものの違いでして、文科省の学校でして、一般教養についても高等専門学校の教育課程で、きちり定まっているわけです。いわゆる一般教養として英数国理社、あるいは芸術・体育等の分野に、時間は十分ではないかもしれませんが、バランスよく教育しております。非常にいい学校であると思っています。

また文化的な企画なども設けまして、青年期にじっくり教養を身につけることが出来る環境があるということで、学生たちにいい影響を及ぼしていると思います。また、高等学校などですと、受験で大学に学生を送らねばならないということで、かえって先生方も窮屈かもしれません。高専の方がそういう面では、時間的にも恵まれていると考えております。

(澁谷委員)

もう1点、広報のことになるかもしれませんが、例えば、都市開発さんが発行している「学都」にいつ石川高専がでるか楽しみにしていますが、そういうのを含めてニュースバリューがどのようなかわかりませんが、そういう広報に対してもう少し積極的に出しても良いのではないかと思います。その辺についてもう少しご説明いただければと思います。

(高島副校長)

ありがとうございました。

『学都』のような、非常に質の高い学術の情報誌に取り上げてもらえれば、ありがたいことだと思います。こちらとしても積極的に対応していきたいと思います。また、ご指導方よろしくお願いいたします。

(澁谷委員)

ここ数年出席させていただいておりますが、如実にステップアップしております。ご無礼な言い方かもしれませんが素人目ながら本当に感銘を受けて聞かせていただきました。20人に1人といわず、10人に1人、突出したものがでないと世の中変わらないと思います。ですから、遠慮なさらずにぐーんと突出して成果をアピールして、皆様の教育成果が変わるぐらいの事をやっていただきたいと思います。個人的な心情ですが、高専の先生方の給料は2倍にしても良いのではないかと思います。

(司会:牧島)

それでは、村上委員をお願いします。

(村上委員)

同窓会の立場といたしましては、やっぱり石川高専の卒業生は凄い優秀だと言われるようになってくれると一番嬉しいわけでありまして、そういった面で素晴らしい教育計画をやられておるということで安心なのですが、皆様から出ているとおり優秀な学生が、レベルの高い学生が入学することが手っ取り早いかなと思います。偏差値の高い学生が・・・俗な言い方ですが、普通高校で我々の頃よく比較したのですが、石川高専のレベルは今の位なのか分からないのですが、昔は例えば何とか高校と同じくらいとかよく言っていた頃があるのですが、そういうことって親子さんとか受験しようとする方に聞きますと石川高専っていいかなと選択肢の中に入ってくることと思いますし、そういうようなことが今は全く聞かなくなりましたが、そういうことも周知することも必要ですし、或いは石川高専の5年間を卒業し専攻科へ行くということが、普通に高校を卒業して大学へ行くよりも先程のお話だと、より効率的で効果的であるというお話もありましたので、この辺についても親子さんや受験生に周知されると、不況の世の中ですから我々でもそうだったのですが、授業料も安いということも非常に魅力ですし、受験される人をもっともっと増やす

ことも可能かなという気もします。環境都市工学科が 1.7 倍で一番低く人気が無いようにありましたが、卒業生としては非常に残念であり、特に力を入れてやっていっていただきたいと思います。同窓会として最後に 50 周年記念事業につきまして、後 3 年後に向けて皆さんで鋭意計画中ですので、多分いい企画になると私はおもっています。以上でございます。

(正吉委員)

先程からユネスコスクールの話が出ておりましたけど、今金沢市の小中学校は全国で 1 番ユネスコスクールに加盟しております。中学校の方は数が少ないのですが、そういった意味でユネスコスクールで繋がるということで、有効利用されれば良いと思います。また、内の学校は近いのですが、絶対に石川高専の方が金沢高専よりもいいと思っておりますので、沢山受験するように私どももコマーシャルいたしますので、またよろしく願います。

(司会：牧島)

それでは、最後に私からですが学生の課外活動について報告をいただきましたし、地域貢献につきましても非常に良くやってる、志願者増加に関しましていろいろな系統的にやってらっしゃると思います。問題は私は一番大切だと思っているのは教育改革、改善、改良が中心にすわるべきかだと思います。これに関して、従来ずっとやってらっしゃるのは、私も知っていますが、やはりこういう風に気を入れてやるんだというような、各先生方が日常的にグループでも良いので、ディスカッションしながら上に積み上げていつ事を常にやっていないと、改善、改良は進まないし、もっと大きい改革に結びつかないし、そこら辺がうんと見えるといいなと思ったのですが、数学を中心に 1 つあるとお聞きしましたが、常に芽といいますかシーズといいますか、シーズというといけないのかもしれませんが、それを各高専の先生方が日常的にやってることが改善、改良に結びつくと思います。そこらが見えますと、プロジェクトを立ち上げるときに寄せ集まってやる。各学科にも必要ですし、各領域にもなされるといいなと思います。既にいろいろな形でやってらっしゃると思いますが。

ちょっと寂しかったのは、プロジェクトが 24 年度以降 1 つも無いことで、プロジェクトが常に二つくらい 2 柱であるというのは、いろいろな面で構成する先生方の意識の交流が結びつくと思いますので、そこら辺は JST のプロジェクトを取るんだという意識でやっていただければ、いろいろな意味で活性化するのではないかと思います。

具体的には、各委員の先生方がおっしゃったように、非常によくやっていらっしゃるのですが、満足するとこれはストップですから我々場合によっては厳しいことを言わなければいけないのですが、やはりちょっと気が引けるところがありまして、その点を組んでいただいて、是非、今後も頑張っていただきたいと思います。

(村本校長)

長時間有難うございました。質問等に対して少しだけお話をさせていただきます。

志願者に関して、本校は中学校に対しては、専願、併願がありまして、専願というのは、本校を受験しますと本校を第1志望として入ってもらう、ですから公立高校は第2志望となるという方針を本校がとっています。よその高専では、富山もそうなんですが併願をとっていますので高専の試験が終わって、その後に県立高校の試験が終わって合格発表があってから高専に行くかどうかを決めれるのが併願です。本校では、第1志望校にしてほしいということで併願をとっていない。今年の例で偏差値はどうなんだということになるとはっきりはいろいろ受験誌やいろいろなホームページに出ているんですが、昨日、一昨日の県立高校の入試につきまして、新聞報道を見ますと此处から近い桜丘の欠席者が34名、小松高校が10名おられたということがあって、そういう方達が本校を受けて県立高校へ願書をだしてあったけれども行かなかった人たちかな、そういうランクになる。また、本校は県立高校の合格発表前に入学確約書を提出していただくことになっており、今年は辞退者0人でありましたので、上位から確実に合格者がきていることになります。志願者倍率があがりまして、尚且つ上位から入学しておりますので私たちも大変嬉しく思っ降ります。本校は本科1000名、専攻科60名、教職員115名で、皆の目が行き届き、情報を共有できる、同じ目標、目的に向っていけるちょうどよい、大きさかなと思っております。教員会議というのは、教員全員が参加します。私が言うことが全員に伝わっていくということが大変良いことだと思います。今日は発言をしましたが、学科主任、各委員会の委員長がおりますので、本日出席していない教員にも雰囲気等を伝えることと思います。いろいろ、私どもが気づかなかったご意見、ご提言をいただきましたのでそれを十分私どもの改善に繋げて生きたいと思ひます。

かたくなに守っていることも幾つもありまして、例えば本校の授業は1コマ100分授業なんです、全国でも殆どが90分授業で、金沢大学でも全て90分授業となっております。それから、金沢大学は1コマは15週なのですが、35週の授業を行っております。先程、密に教育を行っているとお話ししましたが、こういうところがそうなります。先生方の負担は大きいのですが、私は減らしてもいいと思っているのですが、先生方がなかなか頑固なところがありまして、嬉しい部分もあるんですが、守るところ、改革、改善すべきところ両方を考えながら、今後のいろいろなところに繋げたいと思ひます。本当に長時間にわたりいろいろ有難うございました。また、よろしくお願いいたします。

(総務課長)

以上をもちまして、平成22年度運営諮問会議を終了させていただきます。長時間にわたり、ご協議いただきましてありがとうございました。

(終了)



石川工業高等専門学校運営諮問会議規則

(設置)

第1条 石川工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の充実、発展に資することを目的とし、広く学外有識者から意見を求めるため、石川工業高等専門学校運営諮問会議（以下「運営諮問会議」という。）を置く。

(任務)

第2条 運営諮問会議は、本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、並びに校長に対して助言又は提言を行う。

(組織)

第3条 運営諮問会議は、10人以内の委員で組織する。

2 委員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者のうちから校長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 運営諮問会議の議長は、委員の互選により定める。

(運営諮問会議の開催)

第5条 運営諮問会議は、校長が招集する。

2 運営諮問会議は、年1回以上開催するものとする。

3 運営諮問会議は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 委員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(事務)

第7条 運営諮問会議の事務は、総務課において処理する。

附 則

1 この規則は、平成20年12月10日から施行する。

2 石川工業高等専門学校運営協議会規則（平成16年12月8日制定石川工業高等専門学校規則第508号）は廃止する。

3 この規則の施行日前日において、石川工業高等専門学校運営協議会委員として委嘱されていた場合は、この規則の相当規定により委嘱された委員とみなし、当該委員の任期は、平成 21 年 3 月 31 日までとする。

志願者増加対策及び広報活動

入試広報分析委員会委員長
高島要

1、志願者増加に向けた広報活動のあり方

(背景)

- 高専は産業界及び社会から非常に高い評価を受けているが、一方15歳人口の減少もあって、志願者の増加対策が重要な課題となっている。
- 高専機構の「第2期中期目標、第2期中期計画」の中での目標。

- 「入学者の学力水準の維持に努めるとともに、中期目標の最終年度においても全体として18,500人以上の入学志願者を維持する。」
- 235学科9,400名の定員に対して、ちょうど2倍の志願者を確保すること、ということである。
- 5学科を有する石川高専の場合は、定員200名に対して、400名以上の志願者を確保することが目標となる。

- 地元の15歳人口の動向
- 石川県の場合

現在約10000人強。

その中学3年生の、

25人に一人、

いや20人に一人は、

是非石川高専を志願してほしい。

- このことは、単に数字としての競争率を競うことが目標なのではなく、学力水準の維持・向上につながるという、意味の深い目標の設定である。
- 「見かけ志願者増」に腐心するのではなく、真に高専をめざす学生を確保する、ことが重要。
- 志願者増加対策もそういう観点で進める。

（広報活動の方針）

○より多くの受験生に、「高等専門学校」を知ってもらい、多くが工業の分野であることを理解してもらう。

○より多くの受験生が、より幅広く適切な進路選択ができるように、石川高専としての的確な案内を用意する。

○今日の社会や時代の動向をよく注視してもらって、学業を修める場としての高専の有意性を理解してもらう。

○高専の学科構成の中で、石川高専の学科構成のバランスのよさ、を特に理解してもらう。

○学びの場としての、石川高専の立地条件や学習環境のよさ、を特に理解してもらう。

本校の最近3年間の志願者の動向

	年度	21年度			22年度			23年度		
学科	種別	志願者	入学者	実質競争率	志願者	入学者	実質競争率	志願者	入学者	実質競争率
機械	推薦	33	16	2.1	39	15	2.6	22	15	1.5
	学力	67	26	2.6	69	26	2.7	51	25	2.0
電気	推薦	31	16	1.9	53	15	3.5	35	15	2.3
	学力	60	26	2.3	87	27	3.2	50	26	1.9
電子情報	推薦	48	16	3.0	44	16	2.8	57	15	3.8
	学力	75	26	2.9	72	26	2.8	81	27	3.0
環境都市	推薦	30	16	1.9	21	15	1.4	34	17	2.0
	学力	55	26	2.1	66	26	2.5	53	25	2.1
建築	推薦	35	15	2.3	28	15	1.9	37	16	2.3
	学力	48	27	1.8	52	26	2.0	67	25	2.7
総計	推薦	177	79	2.2	185	76	2.4	185	78	2.4
	学力	305	131	2.3	346	131	2.6	302	128	2.4

2、 24年度入試向けの 23年度の入試広報活動

①中学校訪問

(1)春の中学校訪問(5月中旬から6月上旬)

体験入学の日程や公開講座の案内を含む。

(2)秋の中学校訪問(10月から11月)

24年度募集要項の案内。

②体験入学

(1) 7月26日(火)、27日(水)実施。

(2) 参加者 生徒数707名

(前年度575名、前年度比132名増)

(3) 各学科・各研究室の体験の

プレゼンは本校学生。引率、監督は本校教員。

(4)参加者の声(保護者、教諭含む)(770名のうち755名の回答、98%)

5.参加した理由

石川高専を知るため	429	56.8%
希望学科の内容を知るため	223	29.5%
先生・保護者に勧められて	35	4.6%
友達が参加するので	27	3.6%
なんとなく	17	2.3%
その他	9	1.2%
無回答	15	2.0%
計	755	100.0%

6.進路選択の参考

非常に参考になった	540	71.5%
参考になった	199	26.4%
わからない	9	1.2%
無回答	7	0.9%
計	755	100.0%

体験入学アンケートと志願動向

7.興味深かった学科(複数回答可)		
機械工学科	293	23.4%
電気工学科	241	19.2%
電子情報工学科	392	31.3%
環境都市工学科	142	11.3%
建築学科	184	14.7%
計	1,252	100.0%

学科	種別	24年度		定員競争率	
		志願者	志願者合計		
機械	推薦	50	103	2.6	
	学力	85			
電気	推薦	39	85	2.1	
	学力	69			
電子情報	推薦	50	101	2.5	
	学力	84			
環境都市	推薦	26	66	1.7	
	学力	51			
建築	推薦	40	84	2.1	
	学力	69			
総計	推薦	205	439	2.2	2.7
	学力	358			2.9

入試広報活動のねらい

- 「自分がゆきたい」学校としての高専。
- 「自分が学びたい」学科としての高専の学科。
をわかってもらうことが重要。
- 以上のアンケート結果は、体験入学が、端的にそのねらいとかみ合うものであることを示した。

③入学試験説明懇談会

- 地区別会場及び本校会場で実施。
- 本校会場では、別に
中学教諭向け説明会
(今年度は本校の施設見学も)を行った。

(1)地区別説明会

- 金沢会場 9月25日(日)10時から12時 石川県地場産業
振興センター
- 小松会場 10月9日(日)10時から12時 小松商工会議所
- 本校会場 10月2日(日)10時から12時 本校
- 本校会場 10月18日(火)15時から17時 本校
(中学校の進路指導担当教諭向け)
- 七尾会場 10月22日(土)10時から12時 七尾サンライフ
プラザ
- 高岡会場 10月15日(土)10時から12時 ウイング・ウイン
グ高岡

(2) その他の説明会及び進学相談

○石川の技能まつり会場 10月2日(日)
石川県産業展示館

○オープン・カレッジ 10月29日(土)30日(日)
本校

○学校説明会 12月10日(土)10時から13時
本校

3、 24年度の志願者及び競争率と 来年度の課題

	年度	24年度		
学科	種別	志願者	志願者 合計	定員競 争率
機械	推薦	50	103	2.6
	学力	85		
電気	推薦	39	85	2.1
	学力	69		
電子情報	推薦	50	101	2.5
	学力	84		
環境都市	推薦	26	66	1.7
	学力	51		
建築	推薦	40	84	2.1
	学力	69		
総計	推薦	205	439	2.7
	学力	358		2.9

来年度の課題

○景気動向の厳しい社会情勢の中、今一度、高専の早期専門教育による技術者の養成、変わらぬ産業界のニーズ（就職率100%）、といった、高専の社会的使命を、社会や中学生が適切に情報をキャッチし理解する機会を得られるよう、さらに広報活動の質的な充実に努める必要がある。

○本校としては、特に重要な「体験入学」の時期の変更(学年歴の改定による)を、よく周知して、中学生が少しでも多く「体験入学」の機会を得られるよう配慮していく必要がある。

○入学試験競争率3倍、単純志願者数2.5倍のラインを目標に、引き続き維持したい。

1(4)技術者・社会人としての人材育成 ②学寮における指導(留学生含む)

1. 学寮(有朋寮)について
2. 寮生会について
3. 留学生について



1(4)技術者・社会人としての人材育成 ②学寮における指導(留学生含む)

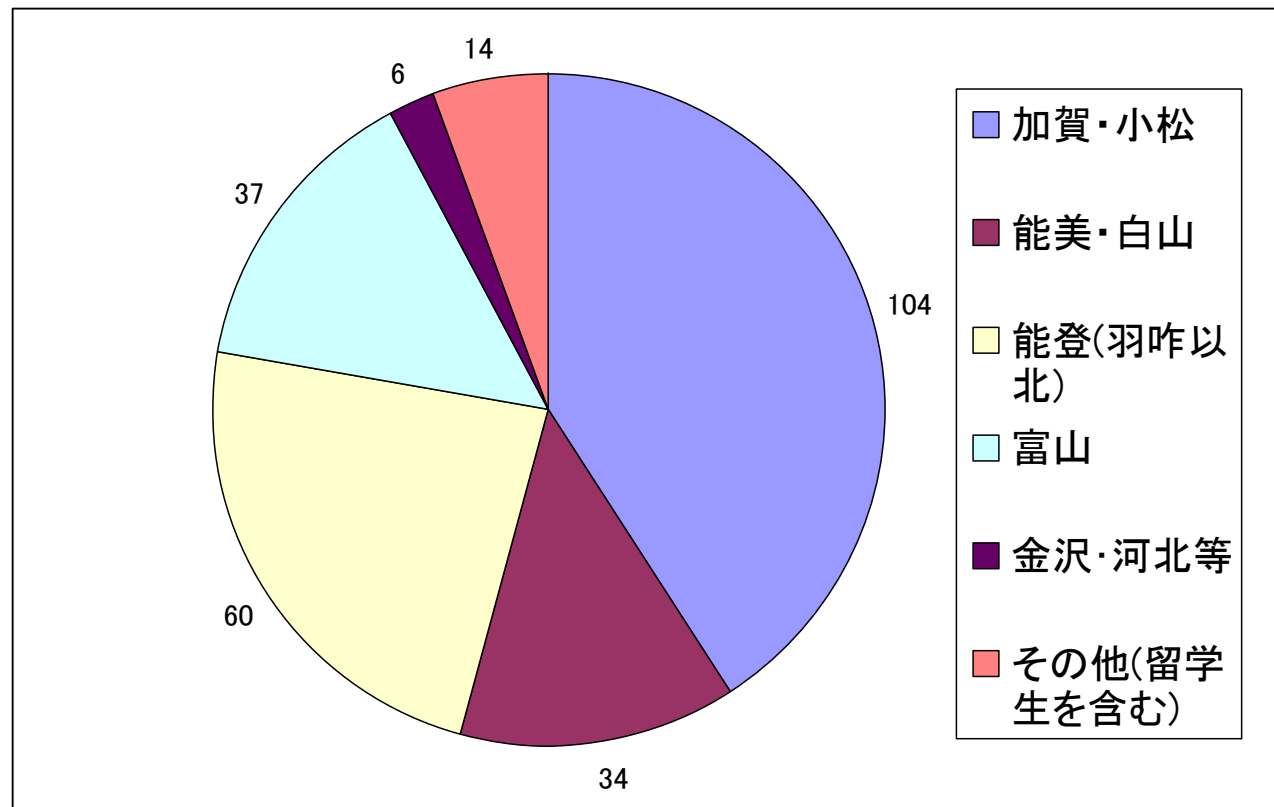
1. 学寮(有朋寮)について (定員303名=男子229名+女子74名)

◎寮生数: 実員255名(平成23年4月1日現在)⇒全学の1/4

【入寮条件】原則、登校時間80分以上

⇒通学時間を勉学・課外活動に有効利用

【地域】



1(4)技術者・社会人としての人材育成
②学寮における指導(留学生含む)

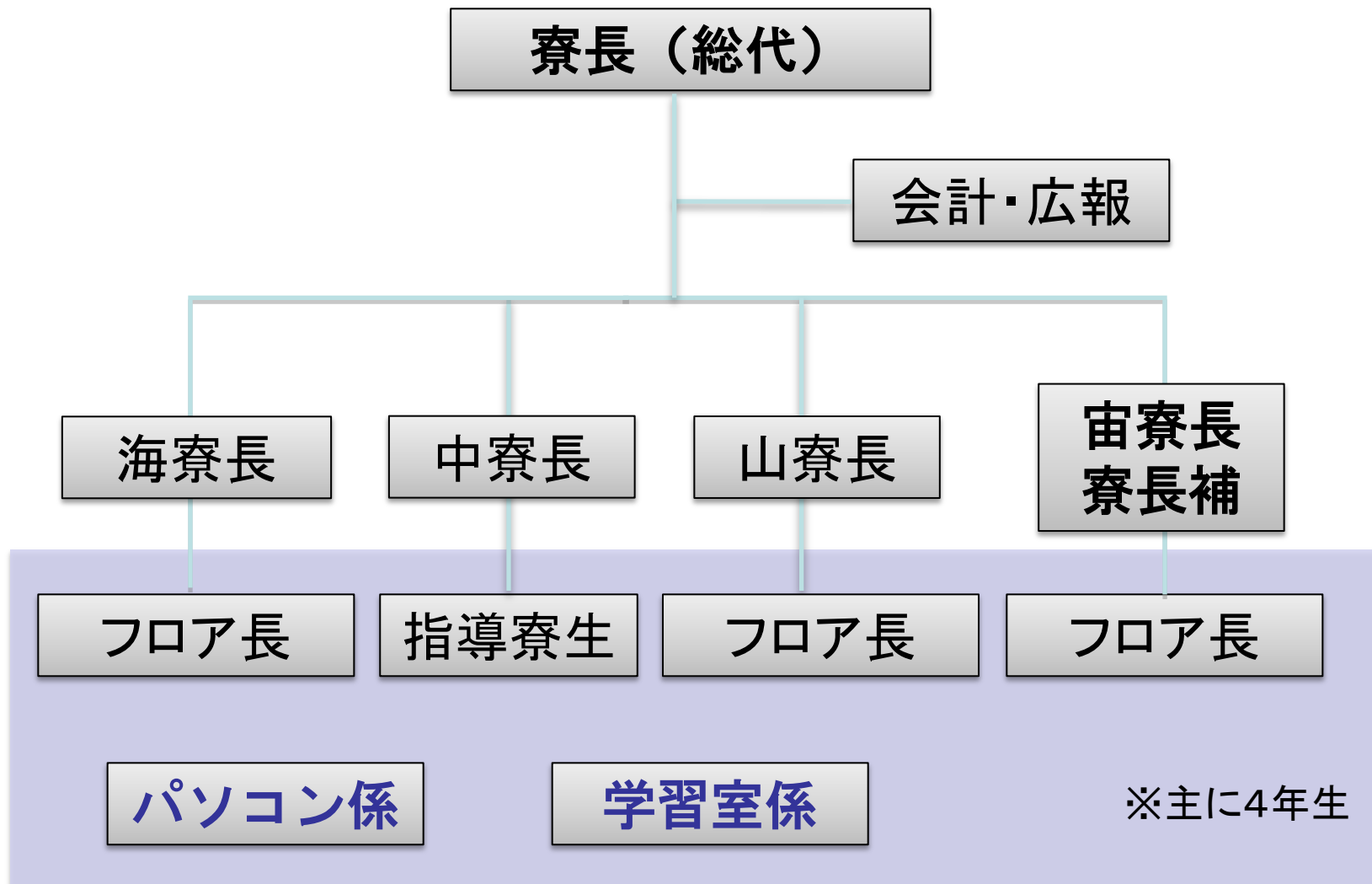
◎寮生活からの育成目標

- (1) **自学**・自習により技術者としての素養を身に付ける。
- (2) **自律**の精神で他人への思いやりも考える。
- (3) 寛容・互助の心や**友情**を育てる。
- (4) 規則・日課は守る。
- (5) 身の回りは清潔に保ち、**健康**的に生活する。

◎寮生のコアタイム：**門限 21:00～登校 8:30**

開寮時，常時(24時間)，教職員2名で対応
(＋寮母(平日17:15～21:15)が，女子寮対応)

2. 寮生会について: 生活目標を達成するための活動



1(4)技術者・社会人としての人材育成 ②学寮における指導(留学生含む)

◎自学・自習

⇒学習室(試験一週間前でない平日:21:30~22:30)

目的:寮生に自学の癖をつけさせる。

対象:1年生

(曜日に分けて指導)

場所:食堂

【その他】

居室で自学・自習

⇒成績等(主事把握)



◎最近の主な寮関係工事(平成22～23年度)

- ・居室等の無線LANから有線LANへの変更(22)
⇒ 自学・自習環境の改善
- ・新棟女子寮(宙寮)の開寮(22) ⇒ 定員増
- ・旧女子寮の男子寮への改修(22)
- ・定員増に伴う食堂の改修(23)
⇒ 学習室などの改善
- ・全居室エアコン導入(24)のための電源改修(23)
⇒ 自学・自習環境の改善

1(4)技術者・社会人としての人材育成
②学寮における指導(留学生含む)

3. 留学生について

- ◎対象留学生: 国費 & マレーシア政府派遣留学生等
⇒日本語をかなり修得した後, 本校へ
- ◎人数: 各学年2~3名
- ◎学年: 3~5年
- ――
- ◎カリキュラム: 留学生個々に設定
⇒国語等はなく, 代わりに日本語教育
⇒専門科目では, 個別教育が加わる
(電気工学演習 I, II, III, IVなど)

1(4)技術者・社会人としての人材育成

②学寮における指導(留学生含む)

◎寮における指導

- ・3・4年次留学生1名に対し, チュータ2名を付ける。
⇒生活習慣などの指導。居室の横に3年チュータ室。
- ・宗教対策: 個別食事に対応。⇒バランス良い食事(食育)
- ・寮生会行事に参加 ⇒交流
- ・長期休業時も寮に滞在 ⇒ホームステイ(課題)

◎留学生交流促進(国際交流委員会)

- ・留学生と本校学生との交流
⇒歓迎会, 講演会(2年), スノースポーツ, 意見交換会等
- ・津幡町条南小学校との交流
- ・北陸地区留学生間交流

学校の広報活動の現況 と ホームページの改訂

図書情報主事
阿蘇和寿

図書情報主事の所掌

- 図書館委員会
- 広報委員会
- 紀要委員会
- 情報処理センター委員会

図書館委員会

- 図書館報『灯火』(年2回)
第111号(7月), 第112号(2月)
- 別冊『灯火』(毎年)
第26号(2月)

広報委員会

- 学校要覧 (毎年 4月)
- 石川高専だより (年2回)
no.82 (7月), no.83 (2月)

紀要委員会

- 石川高専紀要 第44号 (毎年, 3月)
- 情報処理センターでは
情報処理センター広報 (隔年, 3月)

ホームページの管理

- 今年度，中学生向けのページをリニューアル
- Webページ更新の検討会議
来年度に向けて
ページ全体の刷新
現在，最後の調整

新ホームページ特徴

- 軽く, 見飽きないページ
- 中学生へ INCT Navi
必要な情報を見やすく
- 情報発信 Topics
石川高専の活躍をカテゴライズ

適切な情報の発信

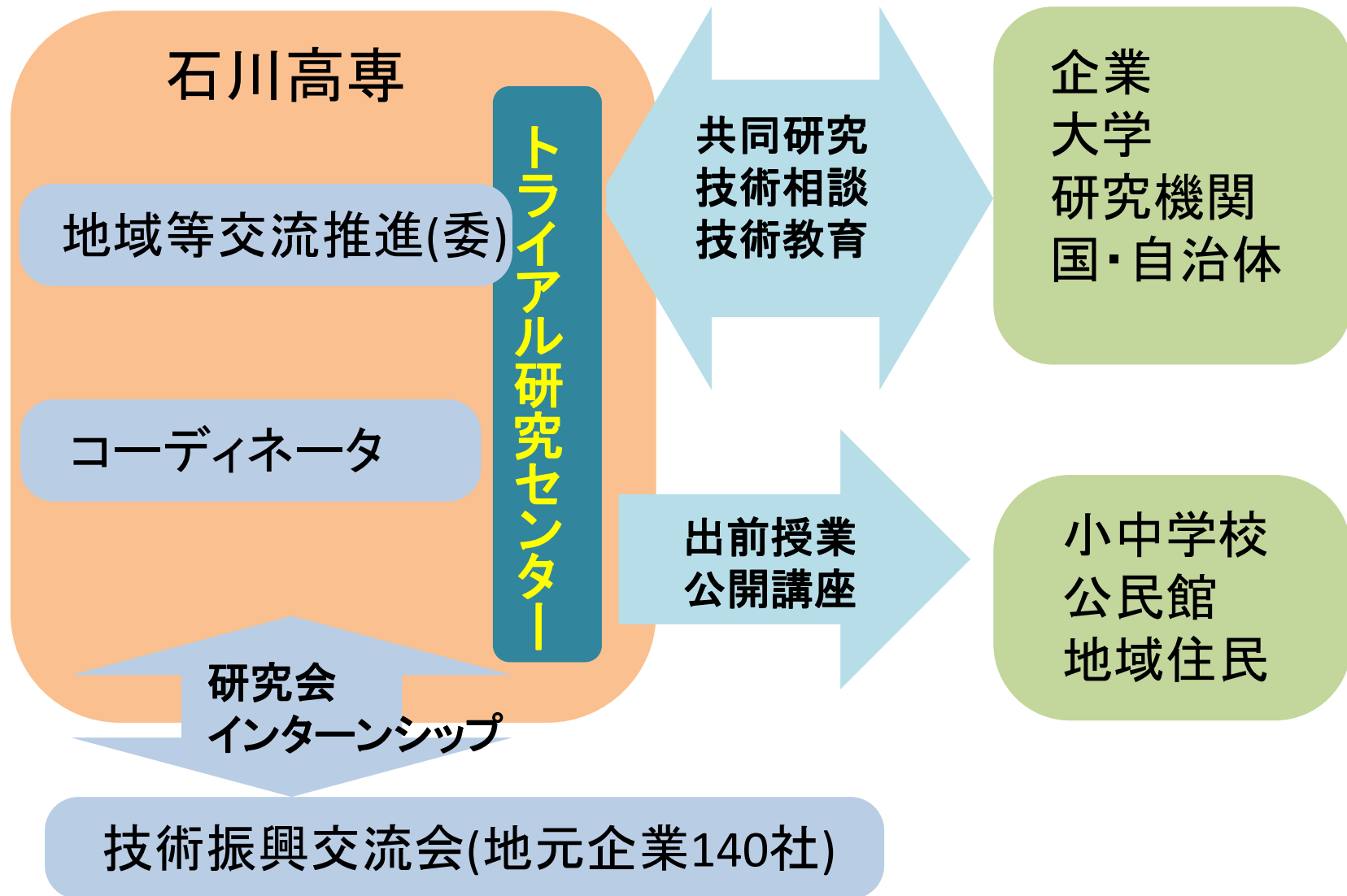
- さまざまな広報活動をホームページで提供
- 学校が管理 ／ 掲載手続きの簡略化
- 古い情報を整理
適切なものだけを精査
個人的なことはレンタルが安全

地域貢献と研究活動

地域連携主事

西澤辰男

地域貢献



体制

- トライアル研究センター
 - 地域等交流推進委員会
- 企画・地域連携係
- コーディネータ(4名)

機械工学科・電気工学科・電子情報工学科担当



西村 透氏

石川高専機械工学科一期の卒業です。これまでの経験と技術力を活かして、母校にお役に立ちたい。

E-mail renkei2



吉田 博幸氏

北陸の風土と産学官連携のネットワークの場を活かし、「日本一の高専誕生」に努力いたします。

E-mail renkei3

環境都市工学科・建築学科担当



渡辺 修身氏

“ものづくり”の基本は、物への想い。いれが大事! シビルエンジニアリングの感性で貢献いたします。

E-mail renkei4



加藤 章三氏

「温新知故」の気持ちで、超高層ビルの建設の心気意気度で新たな高専の力の誕生に貢献します。

E-mail renkei

今年度の取組み

- 技術振興交流会との連携
 - 県内企業約140社
- 出前授業・公開講座, サイエンス車の活用
- グローバル人材の育成
 - 石川県の事業
- 地域との連携
 - 津幡町, 内灘町, 金沢市
- 外部資金の獲得状況

産学官交流懇談会

- 特別講演＋教職員の研究紹介＋交流会
 - － 近藤 修司 氏「企業元気化と高専元気化で日本一の地域をつくる」



研究会

- 3D—CADとCAE利用研究会(M科)
- サーボシステム応用研究会(E科)
- Android研究会(I科)
- TRIZ研究会(M科)
- 能登産力キ殻の地盤工学的有効利用に関する研究会(C科)
- 津幡町の総合活性化研究会(A科)
- 耐震を考慮した木造建築研究会(A科)
- その他...

見学交流会

- 県内企業の業務を見学し、会員と教職員との交流を図る。
 - － 第3回新幹線白山車両基地
 - － 第4回ニッコー(株)
 - － 第5回福島印刷(株)



学生への支援

- オンリーワンプロジェクトへの支援
- 応援用横断幕



企業説明会

- ・ 会員企業の業務内容を学生に紹介



特別教育研究経費 (H22, H23)

- 出前キャラバンによる環境リテラシー教育の新たな情報発信
 - － 河北潟を代表例として－
 - － 社会に必要な『持続可能な開発』を担う石川高専の戦略的な研究・教育内容について、地元地域を中心に発信するシステムを構築する。
 - － この事業により石川高専を小中学校のみならず、産業界に広く周知し、創造力ある技術者を目指す志願者の増加を図る。

サイエン車(才媛者?)



出前授業の実施状況(H23)

	授業名	会場	開催日	参加人数
1	親子おもしろ科学実験教室	津幡小学校	6月25日(土)	29
2	風力発電、エコエネルギーに関する実験	輪島市門前東小学校	7月30日(土)	50
3	実験工作だいすき教室「身近な色の不思議」	津幡町中条公民館	8月26日(金)	20
5	環境教室	内灘町立向粟崎小学校	6月30日(木)	66
6	環境教室	内灘町立向粟崎小学校	6月30日(木)	66
7	河北潟の水質について	内灘町立大根部小学校	7月12日(火)	85
8	ミニ環境フォーラム(水質浄化を考える)	金沢市校下婦人会連絡協議会	7月21日(金)	50
9	地震に強い建物づくり	津幡町刈安公民館	8月2日(水)	20～30
10	文化祭での高専パフォーマンス?	小松市立板津中学校	11月2日(水)	300
11	ミニ環境フォーラム(水質浄化を考える)	金沢市校下婦人会連絡協議会	8月23日(火)	50
12	実験工作だいすき教室「光であそぼう☆見えない光☆ふしぎな光」	内灘町鶴ヶ丘西公民館・児童部	8月4日(木)	24
13	電気ってなあに～身近なエネルギーを体感しよう～	津幡町立津幡南中学校	8月4日(木)	8
14	太陽光をつかって	内灘町役場	8月3日(水)	30
15	身近な環境問題について考える～竹害と風力発電を通じて～	内灘町役場	8月3日(水)	15
16	Hello ”3D” World～立体画像を作ろう～	本校	8月2日(火)	15
18	地震に強い建物づくり	内灘町白帆台公民館	8月24日(水)	20～30
19	(中学校サイエンス教室)	内灘町教育委員会(内灘中学校)	11/7～11	1～3クラス
20	(親子科学教室)	津幡町教育委員会(中条小学校)	2012/2/4(土)	

実施状況

- 11月2日， 小松市立板津中学校
- 生徒64名（1年生28名，2年生21名，3年生15名）
- 人が乗ることができる自動運転が可能なセニアカーについての講義

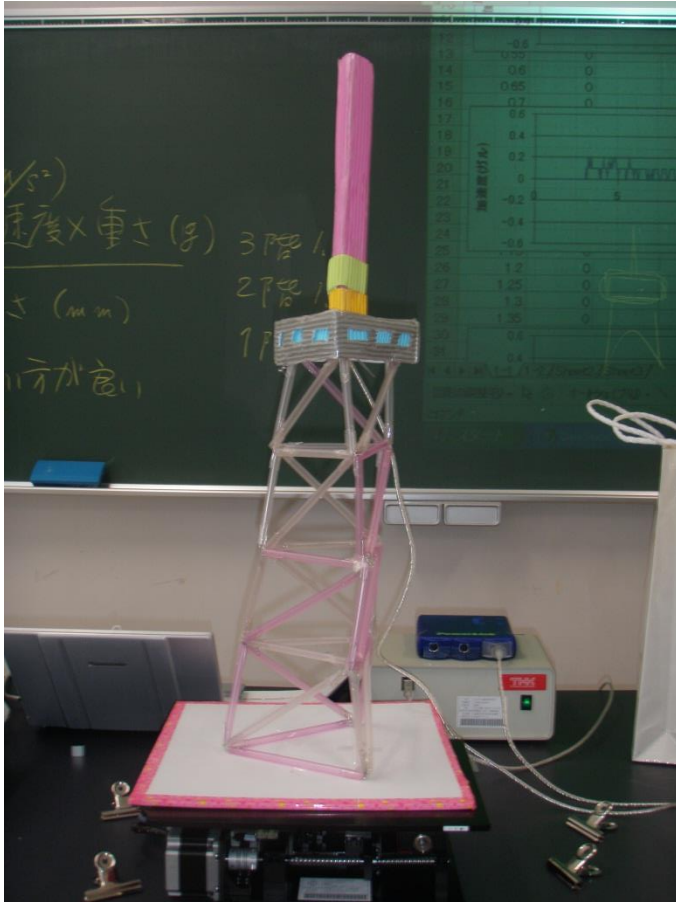


公開講座の実施状況(H23)

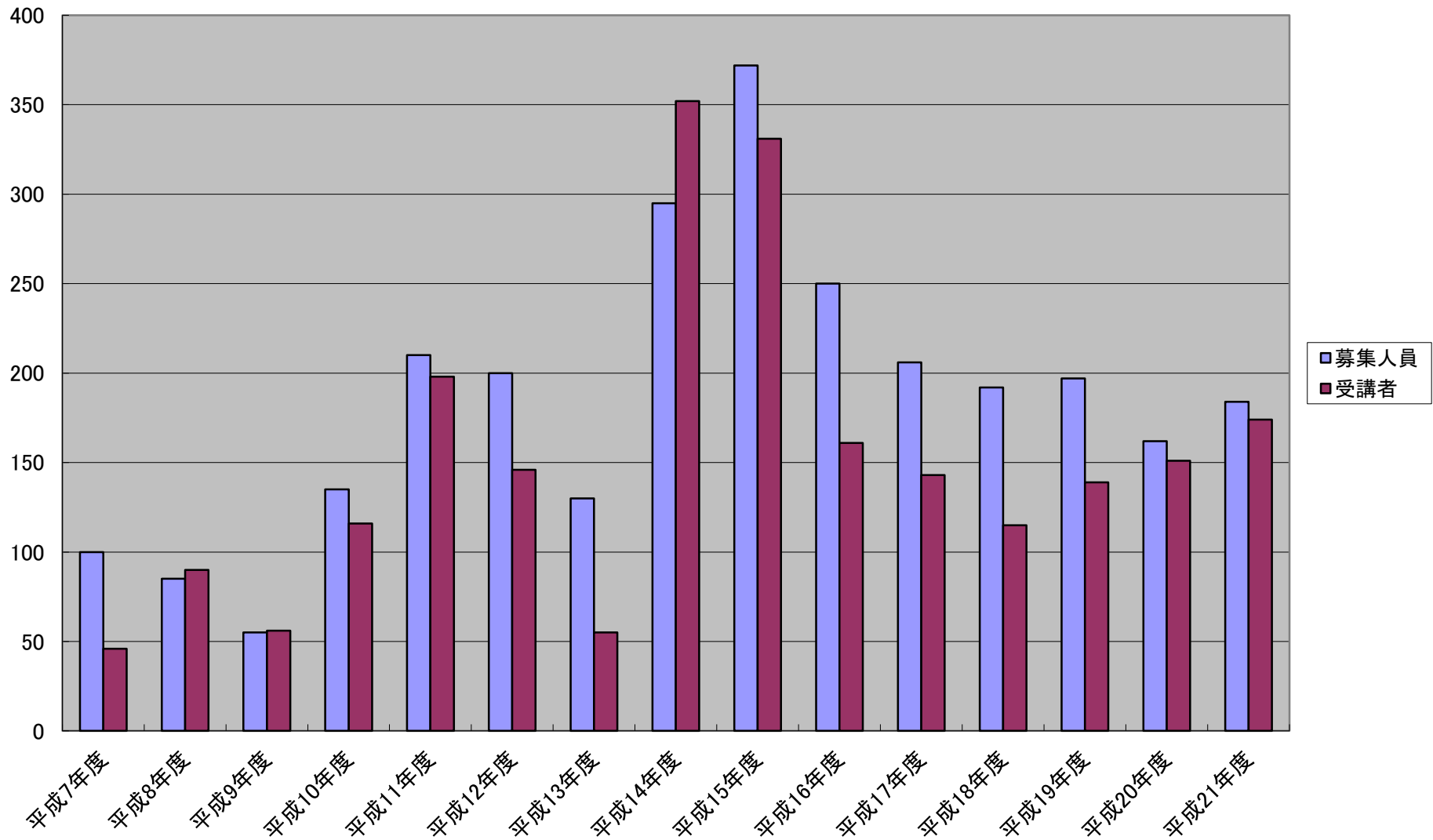
日にち	講 座	受講 人員	対 象
5月21日(土)	鋼橋の維持管理	9	一般
7月30日(土)	だれでもできパソコン組み立て教室	20	中学生
8月1日(月)	PICマイコンボードの製作とC言語によるプログラミング	9	中学生
8月2日(火)	おもしろ機械工学教室～チャレンジものづくり～	9	小学5年生～中学生
8月5日(金)	台風と地震に強いタワーコンテスト	15	小学生
8月6日(土)	中学生のための電気工学入門～LEGO Mindstormsで学ぶ簡単な制御～	10	中学生
中止	電子回路制作×プログラミングを体験してみよう	-	中学生
8月9日(火)	3次元CADとモデルの試作	6	中学生
8月21日(日)	勝手にデザコン！～紙でつくる楽器～	9	小学生、中学生
8月23日(火)	実験工作だいすき教室～空気の力ってす・ご・い～	13	小学5年生～中学生
8月24日(水)	基礎からわかる楽しい電子工作	14	中学生
8月26日(日)	まちをつくろう～模型でつくる家と町～	11	小学生、中学生
8月30日(火)	運動会に向けた駆け足レベルアップ講座	26	小学5年生～中学生
10月15日(土)	有限要素法による舗装構造解析入門	30	一般

公開講座の例

- 地震と台風に強いタワーコンテスト



公開講座の参加者



石川県との連携

- ISICO主催グローバル人材確保支援事業



石川県モノづくりグローバル人材確保支援事業

グローバル人材確保支援事業

産学連携／人材活用フォーラム・人材交流会

グローバル市場へ挑戦する石川県を代表するモノづくり企業が一堂に集います。教育と企業経営者・担当者との関係をメインとする“人材活用フォーラム”並びに学生と企業経営者・担当会との関係をもメインとする“人材交流会”を、キャンパス内特設会場にて開催。是非この機会に、あなたもグローバル時代の準備を整え積極的に参画して下さい！ Let's Globalization!

2011 9/21 水曜

人材交流会（企業参加者と学生との交流場）

9:00～12:00 / a.m.

人材活用フォーラム（企業参加者・学校関係者との交流場）

13:30～18:30 / a.m.

会場：金沢工業高等専門学校

多目的ホール

〒920-8501 石川県小松市大杉町1-1

どなたでも自由にご参加下さい
（事前申込不要）

出展校

- 株式会社富山県立大学
- 株式会社福井県立大学
- フロンティアテクノロジー株式会社
- 株式会社北陸国公立大学
- 株式会社共栄学園短期大学
- サンロード株式会社
- 株式会社リサーチ・デザイン・システムズ
- 大同工業株式会社
- 株式会社新潟県立技術専門学校
- 新潟県職工専門学校
- 株式会社エヌ・ピー・イー・エクス
- 宝印工業株式会社
- 株式会社日興製作所
- 株式会社藤田製作所
- 株式会社日本通コンサルタント
- 株式会社PFI
- 宇陀産業株式会社
- ライオンパワーク株式会社

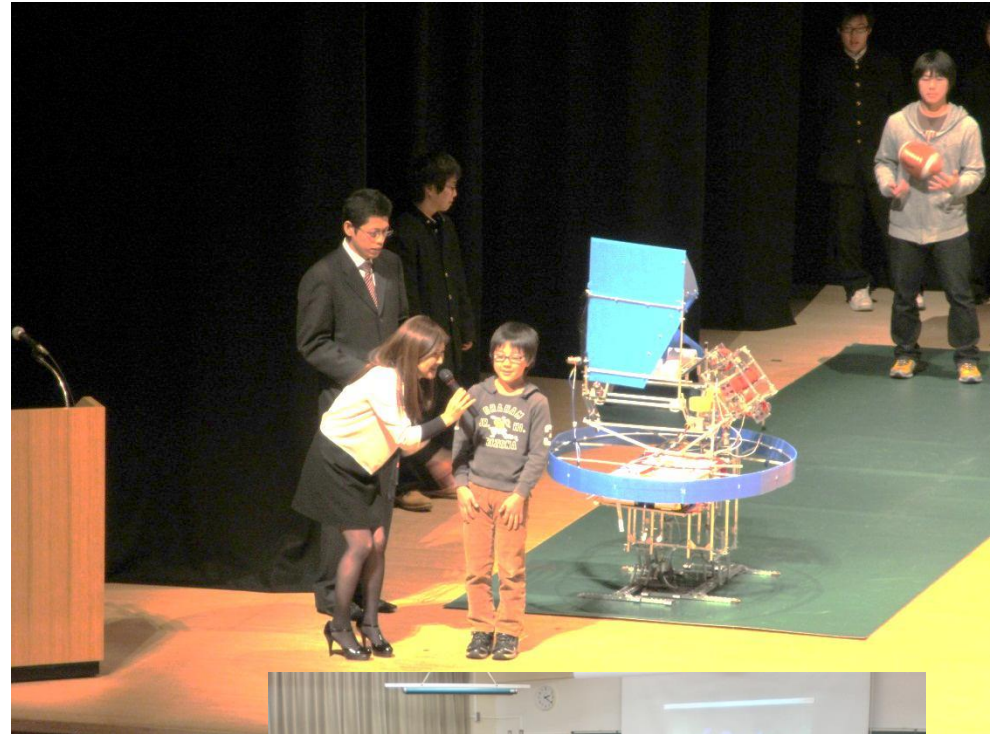
主催：石川県・財団法人石川県産業振興機構
共催：金沢工業高等専門学校

津幡町との連携

- 科学の町津幡

目指せ！
未来のノーベル賞
～科学のまち・津幡～
スペシャルイベント

- 出前授業
- つばた町民八朔祭り
- 生涯学習支援
- どまんなかフェスタ参加
- 各種審議会への参加



金沢市との連携

- 河北潟環境改善プロジェクト
- 杜の里小学校のビオトープ
- 竹資源の活用
- 市立工業高校
- 学生の町推進



外部資金

- 日本学術振興会科学研究費補助金
 - 基盤研究 18件 若手研究 2件
挑戰的萌芽 1件 奨励研究 1件 計22件
 - 全国高専の内定ベースで, 件数4位, 金額9位
- 科学技術振興機構JST
 - 2件
- 共同研究
 - 9件
- 受託研究
 - 9件



専攻科関係

1. 専攻科の位置づけ
2. 長期インターンシップ
3. 進路

石川工業高等専門学校専攻科

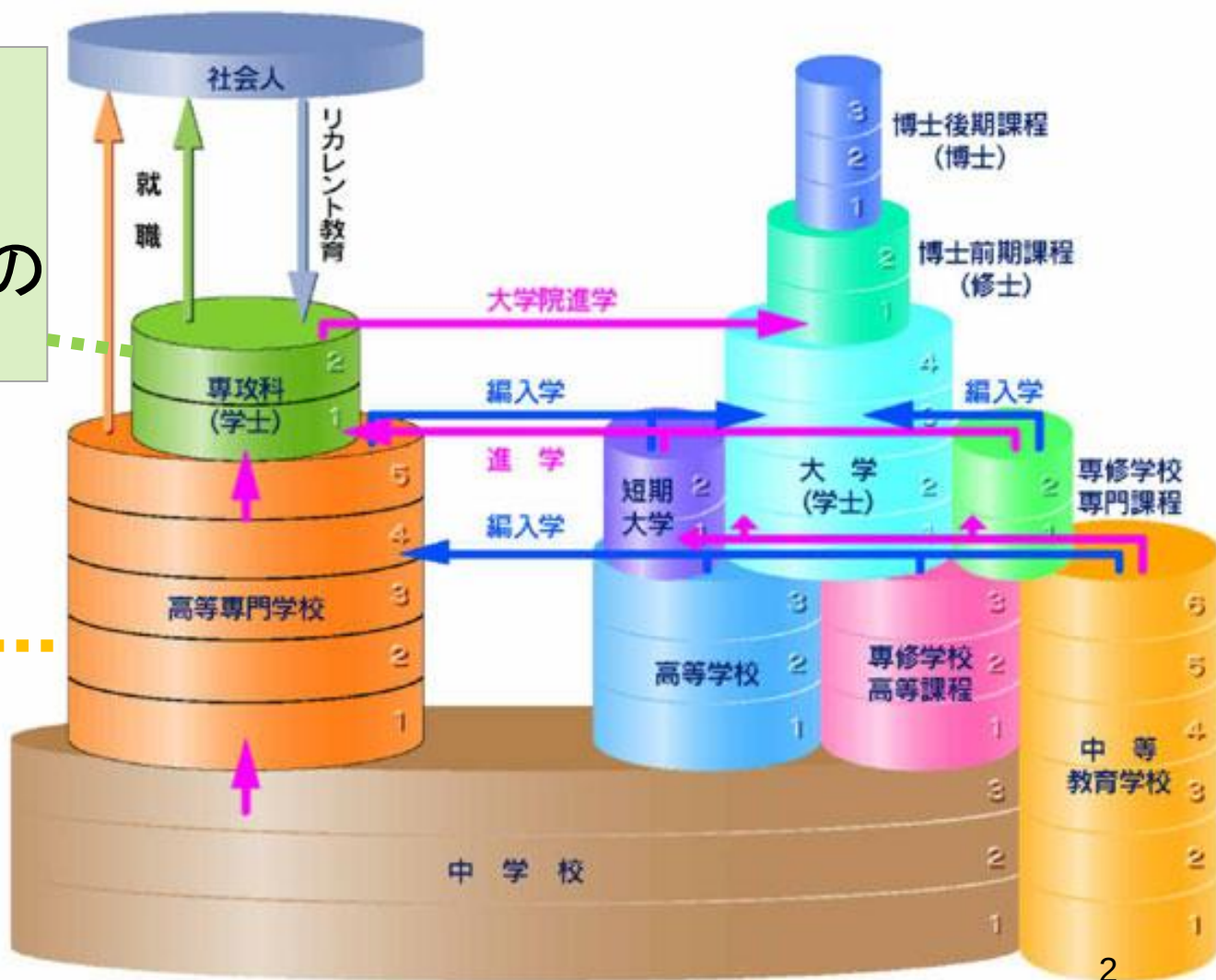
電子機械工学専攻

環境建設工学専攻

専攻科の位置づけ

専攻科：
複数の専門基礎を
学び、複眼的思考の
できる人材を育成

本科：
専門基礎を修得...



長期インターンシップ

【学生のメリット】

- ・自分の知識、能力を高める
- ・仕事の進め方、人との接し方・社会のルールを学ぶ
- ・人間としての成長、目指す技術者像の明確化
- ・課題を発掘して解決する手法を身につける
- ・専門分野に関する知識を再確認

【企業のメリット】

- ・人材育成、学校教育に対する要望、伝達
- ・産学連携強化、情報交流
- ・企業姿勢アピール
- ・職場の活性化
- ・就職ミスマッチ解消

【高専のメリット】

- ・産業界等の連携深まる
- ・企業の最新情報やニーズの把握
- ・社会的評価が高まる

長期インターンシップ

【事前指導】

- ・ 第1回(4月)：目標・意義確認、希望調整
- ・ 第2回(7月)：自己紹介書の作成、提出書類の説明
- ・ 第3回(9月)：本校のコーディネータ等による講演
服装，態度，言動等についての注意
- ・ 第4回(9月)：集中講義(労働安全，守秘義務等)

【インターンシップ】

- ・ 期間：三カ月(9月下旬～12月中旬)
- ・ 巡回指導：月1回程度(指導教員，コーディネータ)
- ・ 学生：中間報告書、日誌の提出(月1回)

【事後指導】

- ・ インターンシップ最終報告書作成、特別研究等への反映
- ・ インターンシップ報告会(1月下旬)

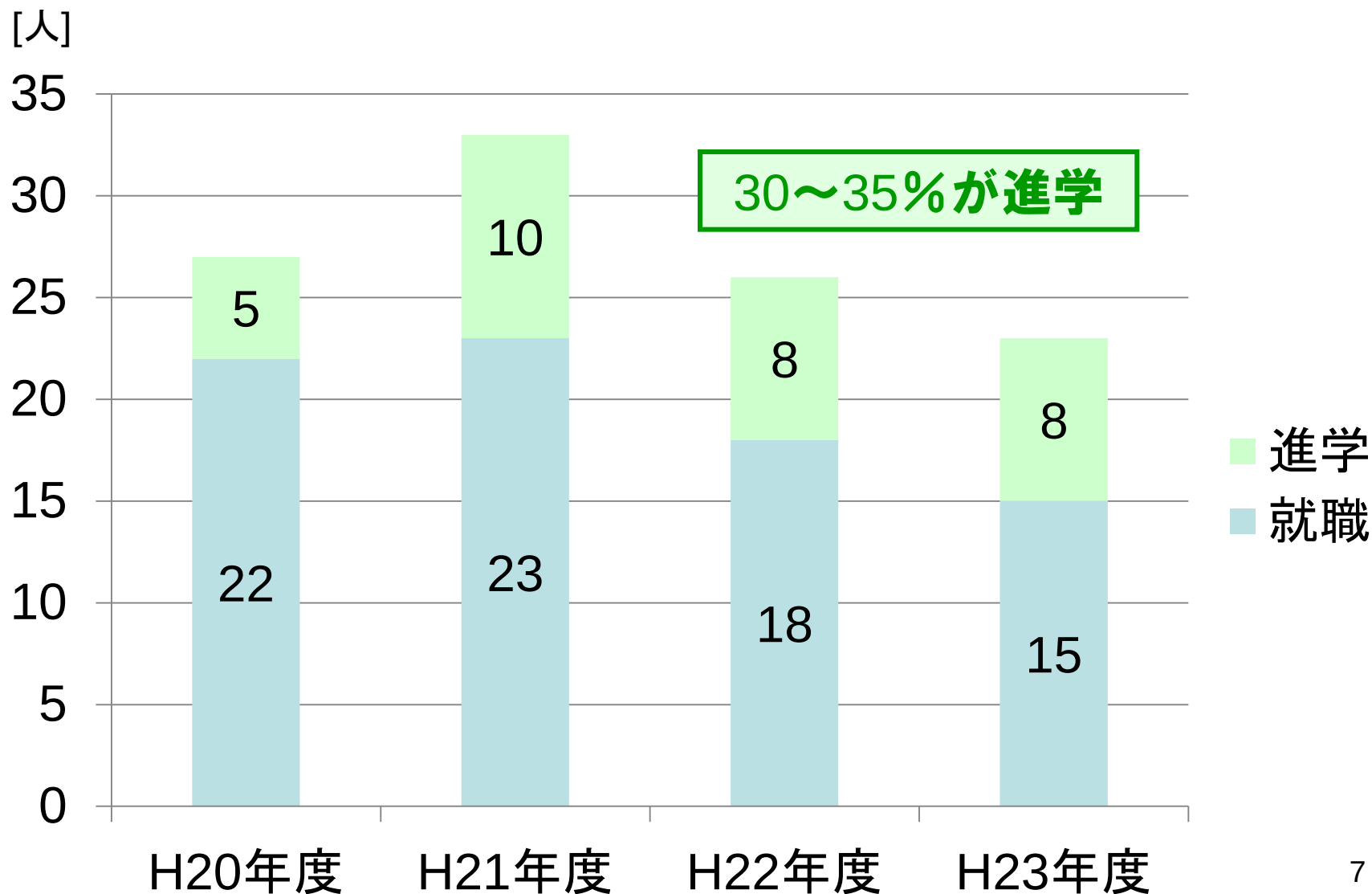
平成23年度 長期インターンシップ先

専攻	実習先
電子機械工学	(株)アイ・オー・データ機器 (株)アム かがつう(株) (株)金沢エンジニアリングシステムズ (株)管理工学研究所 北陸分室 サンケン電気(株)川越工場 (株)jig.jp 澁谷工業(株) チームラボ(株) 津田駒工業(株) 東芝三菱電機産業システム(株) 中村留精密工業(株) (株)ナナオ (株)西野製作所 日機装(株)金沢製作所 ニッコー(株) 日本フィルター工業(株)津幡工場 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア(株) (株)松浦電弘社

平成23年度 長期インターンシップ先

専攻	実習先
環境建設工学	(株)アクトリー 内灘町役場 エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)北陸支店 (株)国土開発センター 国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 (有)小林吉則建築計画室 佐藤鉄工(株) (株)鈴木設備事務所 ナカダ(株) 中日本高速道路(株)金沢支社 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)金沢支店 白山市役所 (有)濱田修建築研究所 (株)アクトリー 内灘町役場 エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株)北陸支店 (株)国土開発センター 国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 (有)小林吉則建築計画室

専攻科修了者の進路状況



大学院入学状況

大学院	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度
金沢大	2	5	4	4
北陸先端大	2	2	2	1
早稲田		1		
東工大				1
名古屋大				1
神戸大		1		
信州大	1			
その他		1		1
計	5	10	6	8

**推薦
入学
協定**